



↑他県産の早春バレイショを確認する参加者ら



早春バレイショの販売促進 都 市圏でトップセールス

鹿児島いづみ農業協同組合バレイショ部会は2月1日と2日の2日間、大阪・名古屋・東京の主力消費地を巡回し、現地業者と早春バレイショの消費地会議を開きました。

この巡回には、同組合の役員、部会員に同行して川添健町長も参加しました。現地の業者を前に「長島は農家の中でバレイショ農家が一番多い。ぜひ販売をお願いしたい」と町長が本町産の赤土バレイショをトップセールスしました。

同組合管内の本年産早春バレイショは、玉肥大が進み、昨年実績より約1300トン増の4400トンが見込まれています。荷動きは他県産の収量も多いことから、厳しい販売状況となっています。



城川内小学校が長生園を慰問

お 年寄りの気持ちを理解しよう

城川内小学校は2月28日、お年寄りの気持ちを理解し、世代を超えたふれあいの活動を行おうと養護老人ホーム長生園を慰問しました。

今回、長生園を訪れたのは同校の5・6年生34人。児童全員で合唱を披露した後、入所者と会話をしたり、肩たたきでふれあったり、手を取り合って園内を散歩したりして、楽しいひと時を過ごしました。



↑仲良く散歩する児童と入所者たち

↓会場を埋めつくした感動ミュージカル（写真：劇団四季提供）



20回目の劇団四季ミュージカル 舞 台に目は釘づけ

2月3日、劇団四季ミュージカル『魔法を捨てたマジョリン』が長島町文化ホールで公演されました。

まだ小学生魔女のマジョリンが、魔法を使ったり、空を飛んだり、ハラハラ、ドキドキ、見逃せない場面ばかりのミュージカルでした。

20回目の公演となった今回、会場には約800人の観劇客が詰め掛け、俳優の素晴らしい演技と本格的な舞台に感動しました。来場者の家庭では公演の話題で花が咲き、団欒の輪が広がったことでしょう。